

R. I. District 2610. ROTARY CLUB OF UOZU

魚津ロータリークラブ 会報誌

2012-2013年度 RI会長 田中 作次
2012-2013年度 魚津RC会長 野澤 良成



第2859回 例会報告

2013年2月15日

点鐘・握手

ロータリーソング「我等の生業」

ゲスト並びにビジターの紹介 中田親睦委員会委員長

ゲスト 前魚津市立西部中学校校長 畠山 敏一 様



誕生祝

2月20日 寺崎君



74才になろうとしています。73年間生きてきて昨年は最悪の年でした。半年間、日常生活に支障を来した持病の痛み、交通事故、2回の入院、今年のお雑煮は病院でいただきました。これだけあると、周囲の人から、慰めや励ましの言葉があちこちから聞こえてきました。

占いの世界に運命、宿命という言葉がありますが、去年の出来事は気を付けたり、大事にすることで解決できる事ではなく、73年間生きてきた罰が宿命として与えられたのかなと思っています。

今年もどうなることか、2月20日を迎えられるか分かりません。今年の私の宿命として何があるか分かりませんが、そんなことに惑わされず、元気に明るく一年を過ごしていきたいと思っています。よろしくをお願いします。

2月20日 大村夫人



家内は65歳になります。至って元気です。

先週、四万十川の溪流見学を決行しました。JRで行き琴平で下車、高知でレンタカーを借り、四万十川の上流から下流まで回りました。四万十川の上流はきれいですが、下流は清流ではありません。特徴的だったのは沈下橋が数十か所に渡ってあった事です。四万十川は蛇行して流れてくるので、そんな橋が日常的に使われているのです。

佐田岬の突端まで駐車場から1.9kmもあり、女房も頑張って50分かかって往復しました。最後に道後温泉でゆったり旅の疲れを癒しました。

元気な内、二人でぶらっと、どこにでも行きたいと思っています。今後ともよろしくをお願いします。

会長挨拶



私は日頃から挨拶の中で、風邪やインフルエンザには十分気をつけてくださいと言っていますが、最近寝不足でちょっと風邪気味だったので医者に行ったら、带状疱疹だと言われました。栄養を取りながら、夜更かしをせず、規則正しい生活をして頂くことをお願いします。

本日の誕生祝の寺崎さん、大村さんの奥さん、誠におめでとうございます。

本日の卓話は、ゲスト卓話であり、前魚津市立西部中学校の畠山敏一校長にお願いしました。「教育雑感」と題して卓話をして頂きます。

今日の教育環境の変化は私たちの時と何が違うのか、又、子ども達、親、先生が変わってきているのか、私には分からない訳ではありますが、一体何が変わってきたのかなあと私は思っています。畠山先生には長きに渡る教職の経験の中からお話を聞かせて頂けるものと思っています。短時間ではありますが、後ほどよろしくお願いたします。

訂正・お詫び 根岸さん

現在、共産圏にはロータリークラブはありません。戦前にはありました。

幹事報告

- ・魚津しんきろうマラソン実行委員会より 開催案内
- ・2月例会案内
2月22日 卓話 杉野君 (サンルート)
- ・2月SAA補助 寺崎、広浜、吉崎 君

出席報告 坪野出席委員

本日の出席者 31名 出席率77.5% 欠席者 9名
メイクアップ済み 愛宕さん
2857回のメイクアップ なし
2857回の修正出席率87.5%→87.5%

ニコボックスの報告 辻英晴ニコボックス委員長

- ・中島さん→昨日、金太郎温泉の帰り、万両に入りました。ヘアスタイルの変わった奥さんを美しく感じました。帰り際にプレゼントを頂きました。昨日は何の日でしたか。
- ・野澤さん→皆さん、健康には十分気を付けましょう。

委員会報告



若井会長エレクト

会員数も40名になり、会員名簿を新たに作成したい。
必要事項を記入する資料を事務局からFAXする。
パスポート大の写真を添付し、今月末まで提出願います。

釜山釜一RC友情交換委員会 吉森委員長
来週中に委員会を開催します。



本日の卓話

「教育雑感」 前魚津市立西部中学校校長 畠山 敏一 様



○ 本日はお招きいただきありがとうございます。私は、このような会に出るのは初めてですし、人前に立つのも久しぶりで、大変緊張しておりますが、よろしく願います。

先日、野沢会長さんから電話をいただきまして「ロータリークラブの例会で、教育に関することを30分ほど話してほしい」と依頼されました。「私などはとても」と断ったつもりですが、野沢会長には西部中学校で大変お世話になっていきますのでそれ以上断れません。

野沢会長には ・PTA会長 ・何十周年記念事業での関わり ・65年間に2万7千人近くの卒業生を出している西中同窓会の世話 ・半世紀に一度の23年度校舎新築記念事業の実行委員長等でお世話になっていきます。

校舎新築に当たっては、多くの皆さんにご支援をいただき感謝しています。とりわけ野沢会長には誠意をもって応えねばならないと思い、本日出席させていただきました。

○ さて、依頼のあった教育問題といっても、いろいろと話題が多い中で、ここでは、今も毎日報道されております「体罰問題」に関連することを少しお話させていただきます。

皆さんご存じのように、体罰問題は大阪市の桜宮高校のバスケットボール部に端を発し、その後全国的に広がりを見せ、女子柔道のナショナルチームの指導にまで波及していったものです。現在もマスコミを賑わせています。

桜宮高校の時、橋本市長が前面に立たれ、よくテレビなどに出ておられました。その中で「教育委員会制度」のことにも触れておられました。皆さんお気づきだったでしょうか。

「いろいろな教育問題に関して、自分に権限がない。」と嘆いておられました。

これは、教育委員会が市長部局から独立して存在することを言っておられた訳です。実際、市長の教育に関する職務権限というのは、「教育財産の取得・処分」とか「予算の執行」などに限られています。他の権限のほとんどは、教育委員会にあります。

これはなぜかというと、

※ 戦前・・・教育に関する事務は国の仕事

※ 戦後・・・昭和23年～31年 「教育委員会法」(米国の教育使節団の影響大)

一般行政から独立した教育行政、教育委員は住民の選挙

ところが ×教育行政に政治的対立が持ち込まれる

×国・都道府県・市町村の連携が弱い などの問題から

※ 昭和31年～「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(改正をしながら現在)

◎ 教育の政治的中立性と教育行政の安定性を確保するため。

○ では、「体罰」そのものについてですが、テレビ、新聞、雑誌など見ると、さまざまな報道がされ、意見も出ています。

建前論になるかもしれませんが、学校における「体罰」の問題については、その是非を論ずるまでもありません。なぜかという、皆さんも、もうご承知のことと思いますが、

・ 学校教育法 第11条に

「校長及び教員は、教育上必要があると認めるときは、児童・生徒及び学生に懲戒を加えることができる。ただし、体罰を加えることはできない。」という条文があるからです。

桜宮高校のように一方的な体罰の場合、その是非について議論の余地はないと思います。議論すれば、「この法律を変えるべきか、どうか」ということになると思います。

ところが、最近、伊吹衆議院議長の発言にちょっとびっくりしました。体罰を肯定するような発言があったからです。

これまでは、元プロ野球選手の「桑田真澄」さんが、自分の体験を通して語られた「体罰は絶対だめだ」という考え方が正論とされ、実際、橋本市長も認識が変わったと言っておられたのですが、伊吹文明衆議院議長は今月の9日「体罰を全く否定して教育なんかできない。この頃は少しそんなことをやると、父親、母親が学校に怒鳴り込んでくるというのが、父母がどの程度の愛情を子にもっているのか」と述べられたというのです。

この二人の発言は、体罰の否定と肯定ということで、相反するととらえられる方が多いと思いますし、事実そういう面もあるのですが、私は単純に比較してはいけなさととらえています。

それは、桑田さんは桜宮高校のように、スポーツ指導を中心に(野球を通しての体験や日本・アメリカでの指導法の違いといった観点)おいた発言であるのに対して、伊吹さんは必ずしもそうではなく、第一

次安倍政権下で文部科学大臣をしておられた経験から、部活動に限らず学校生活全般(生活指導中心)を念頭においた発言だと思うからです。

実際に、義務教育において問題となる体罰の多くは、桜宮高校や女子柔道のように「スポーツ指導」より、「ルール違反や躰など生活指導に関わること」が多いのです。

従って、体罰の是非を論ずるとき、この二つを混同しては、今後の指導の改善に向けた議論も混乱していくのではないかと思います。

今後、体罰のない指導の在り方を考えるとき、部活動(スポーツ)指導については、桑田さんなり、つい最近も「クローズアップ現代」で智弁和歌山高校野球部の高島監督を取り上げていましたが、お手本となるすばらしい指導者は全国にたくさんおられます。そういう指導者から学べばいいと思います。



ところが問題なのは、生活指導の方です。実際、学校現場では、ごく一部の児童・生徒ですが、言葉によるどんな指導も受け入れず、規律を乱し、問題行動を繰り返す者がいるのです。思春期を迎えている時期なので、ある程度仕方がないのですが、こんな時こそ教師と親が力を合わせて指導に当たらなければなりません。ところが、これもごく一部の保護者ですが、理不尽なことを言って、教師や学校を批判されるのです。こうした実態の中でも、なんとかしてやりたいと、使命感や情熱に燃えて指導に当たっている教師の中に、時々どうしようもなくなって手をあげる者も出ているのです。

そうした現状から思うことは、乳幼児期に親が「愛情をたっぷりかけ」、「最低限でもいいからきちんと躰をして」子どもを学校へ送り出してくれるなら、教師による体罰は激減すると思います。

「親の責任」ということに関して

平成9年(15年ほど前)文部省の海外派遣で、ヨーロッパの一部とアメリカ合衆国に出掛けた

- ・ ジョージア州アトランタの南の方に「サバンナ」小6～中2のミドルスクール
 - 「躰」は家庭の仕事、学校で躰をしてほしいというのはお門違い
両親は子どもにとって初めての教師なのだから と割り切り
 - インターネット(携帯)の問題 → 家庭で起きたことは家庭で責任をもつよう、親に誓約書を提出させている

「体罰のない指導を」ということで今、さまざまな場において議論がなされ、研修が行われています。専門家の意見も取り入れて、是非実りあるものになるよう願っています。

○ 最後に、私の理想とする指導者像を一つ紹介させていただきます。

一言で言うと「児童生徒をいかに自分の手のひらに載せるか」ということです。

- ・ 児童生徒より少しでも多くの面で優れている
信頼される・一目置かれる存在となる
- ・ 手のひらの上にいる個人も全体もよく見ている(把握している)
- ・ 近くにいながら、適度な距離を保つ(必要に応じて近づいたり、離れたり)
- ・ 何よりも大切なのは、余裕をもって指導に当たる
余裕をもつために、自分はどうかあるべきかを絶えず追求していく指導者であってほしい。

指導の究極の極意は「仏の指」だという話をして最後にします。

「ある時仏様が道ばたに立っていらっしゃると、一人の男が荷物をいっぱい積んだ車を引いて通りかかった。そこは大変なぬかるみで、運悪く車はぬかるみにはまってしまった。男はけんめいに引くけれども車は動かない。汗びっしょりになって苦しんでいるが、どうしても抜け出せそうにない。その時、しばらく男のようすを見ておられた仏様は、ちょっと指でその車にお触れになった。その瞬間、車はすっとぬかるみから抜けて、カラカラと男は車を引いていった。」

「奥田正造」という教育学者は、国語の大家であった「大村はま」さんが若かった頃、そう話をされて「こういうのが本当の一流の教師なんだ。男は自分が努力してぬかるみから出たという自信と喜びとでいっぱい、車を引いていったのだ。生徒に慕われている(生徒が先生のおかげでと思っている)うちは、二流、三流だな。」と言ってにっこりされた。

「大村はま」さんは、後年、この話を思い出し、深い感動を覚えた。「もし、男が仏様の力でぬかるみを抜けたと知ったら、ひざまずいて感激したことだろう。けれども、それでは、男が一人で生きていく力、生き抜く力は、何分の一かに減っただろう。仏様の力でそこを抜けることができたという喜びはあるけれども、生涯一人で生きていくときの自信に満ちた真の強さ、それにははるかに及ばなかっただろうと思うとき、奥田先生のおっしゃった意味を深く考えさせられたのです。」

あとがき

体罰問題を考える原点に立ち、論点が明確で分かりやすい卓話でありました。

畠山先生から、原稿を頂いたので、ほぼ、原稿通り載せました。

今一度、じっくり読んで頂きたいものです。そして、体罰問題を論ずる際の立場を確立してほしいと願っています。